

学校法人 滋慶学園 東京スポーツ・レクリエーション専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【平成30年6月11日実施】

平成29年度自己点検自己評価(平成28年4月1日～平成29年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価		自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1				優れている…3 適切…2 改善が必要…1	学校関係者評価委員よりの御意見
1 育成人材 理念・ 像目	1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	3		幅広いスポーツ職種の就業に対応できる課程(学科)を設置し、各課程別に養成目的、教育目標を掲げ、学年暦、教科課程を定めている。	年々変化が激しくなる社会情勢に対応できるよう、「教育課程編成委員会」を開催し、いただいた意見を教育課程の改善に役立てている。また、人材ニーズを把握する為の業界調査を行っている。	3	教育課程編成委員会の意見を、新年度ごとに教育課程の改善に活用するなど、時代が求める教育の在り方を推し進める姿勢があります。また学生や教員が施設を活用しながら、地域スポーツクラブやセミナーの取組は高く評価すべきです。
	1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	3		学生と教員が企業と連携して「Jikei Sports Academy」を運営し、校内の施設・設備を活用した「地域スポーツクラブCLUB-TSR」やセミナーの開催、トレーナー派遣を行っている。	教育活動を業界、高等学校に広報し、共同事業の活性化や連携を強化している。	3	
2 事業計画 ・学校運営	2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	3		運営方針と5カ年計画、実行方針と3カ年計画、実行計画と単年度計画が関連付けて明示している。校内の運営会議、全体会議、部署別会議、各部署研修にて業務の役割や分担を確認している。	外部環境の変化に対応する体制を意識している。職員会議は常に事業計画の目標達成を目的としている。	3	私学の根本である理念を達成するために、運営方針として5か年計画。さらに実行するための3か年実行計画が、校内の運営委員会や全体会議・各部署の研修で確認され、目的達成のための役割や分担がされています。また情報システムの導入も、一時的には混乱が出たものの報告がありますが運用が軌道に乗ってつづる現在は、勤務体系・広報・教育・人事などのシステムも改善がされていることは評価できます。
	2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	3		専門学校基幹業務システム(IBM社製 i 5(アイファイブ)をデータベースとして、Web業務システムの展開を進めている。 ①広報システム(資料請求、学校見学、AOエントリー) ②教務システム(出欠入力、履修登録) ③就職システム(求人情報管理、求人検索) ④勤怠システム ⑤人事管理システム	新システム導入後、一時的に混乱が見られたが結果的には業務改善に繋がっている。他にも開発済みのシステムがあり順次、導入を進めている。本校の勤務形態は変形労働制の為、Web決済が導入されたことにより業務効率は劇的に改善されている。	3	
3 教育活動	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	3		教育課程編成委員会を開き定期的にカリキュラムの内容の提示や相談を行っている。議事録は毎回の委員会で作成し記録に残している。教育指導要領の記載とおり授業を開講している。シラバス・コマシラバス・授業教材の取り組みの成功事例を講師会議(研修会)などで学科を越えて共有する事に加え、講師との日ごろのコミュニケーションも大切にしている。	業界・講師・職員が一体となった授業運営を目指すにあたって、現在おこなっているシステムを水平展開できるように形にしていける必要がある。各学科のカリキュラム実施状況を集約しマニュアル化していく。	3	教育課程編成委員会の開催でカリキュラムの内容の検討もされています。同時に生徒から授業アンケートを受け取り、講師や責任者が共有できるシステムは実に素晴らしいと感じました。驚くべきことは最近の基礎学力の低下が著しい生徒に対して、読む力・書く力・自習の習慣を身につけさせるプログラムに関心を持っていることは、専門学校ではあまりないことですから高い評価と期待が持てます。
	3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	3		講師や業界の方から意見を直接いただきカリキュラムに反映するようにしている。	基本的には各講師による専門的な意見と調査による現状把握、そして最終的に学園全体で統一した考え方のもと、カリキュラムの提供ができる体制になっている。学科長が軸となり学生満足度の高い授業および講師を育成している。	3	
	3-9-4 授業評価を実施しているか	3		開講して、学生が環境や授業に馴染んできた6月に授業アンケートを実施している。また、その結果は全講師に学科責任者個別面談でフィードバックし授業に反映できるようにしている。	アンケート結果より課題講師から順に、フィードバック面談を行い早期の課題解決を行っている。	3	
	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	3		成績評価及び単位認定基準は明確に定めて、学生便覧・教育指導要領に記載している。またオリエンテーション時には、各学科、全学生に伝えている。	基準が徹底的に守られている。また一方で学力が明らかに不足している学生が増えており、必要なレベルにするための対応が必要となっており、学科を越えた低学力者支援をおこなっていきたい。読む力・書く力・自習する習慣を身につけられるプログラムを構築していく必要がある。	3	
4 教育成果	4-13-1 就職率の向上が図られているか	3		学科毎に月別内定目標を設定している。学生就職活動状況表を活用し活動状況を把握しており、就職者数の把握及び対策を立てて学生指導をしている。また、企業に働きかけ就職セミナーを積極的に行なっている。	継続して就職率100%を維持する。また、国内及び海外のプロスポーツチーム、国内大手フィットネスクラブへの就職に関しても学生の希望に応じて積極的に取り組みたい。	3	企業に就職セミナーを働きかける等、卒業後の就職活動が就職率100%の成果を出しています。同時に大手のスポーツクラブや海外・国内のプロスポーツクラブにも積極的に就職の働きかけを実施していることは評価できます。さらに卒業生の同窓会を活用して、情報の交換をしていることは、今後の就職活動の大きな種まきになると思います。
	4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	2		滋慶学園グループ校(北海道、仙台、大阪、京都、名古屋、福岡)においてスポーツ系資格取得率向上目的の会議を行い、取組みや対策の共有を図っている。	アスレティックトレーナー以外の資格合格率が課題であり、カリキュラムや講師の見直し、対策授業等の策を立て合格率向上を目指している。		
	4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	3		離職者調査として卒業して1年目の全卒業生に対し、状況確認を行っている。また、活躍が際立つ卒業生は広報で取材を行っている。年1回、同窓会を実施し卒業後数年経過している卒業生の状況把握もしている。	今年度の同窓会では、卒業生同士の交流(名刺交換会)を行い、近況報告を行っている。卒業生同士、繋がっており多くの確約を知る機会と成った。		

5	学生支援	5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	3	学園として、学生相談室(JTSC)を設置しており、学生本人または担任から予約を受け付けカウンセリングを実施している。また、学生支援の相談も行っている。学園付属の医療機関として、慶生会クリニックを運営しており、常勤スタッフが対応している。	問題学生の早期発見が重要であり、教職員に対し研修を実施している。	3	学生寮の充実や健康管理の支援は、保護者にとっても安心して我が子を学校に預けられると実感できる取組です。 入学前に奨学金や教育ローンのサービスセンターの相談コーナーは、経済的に就学が困難だと考える生徒や保護者にとって夢を切り捨てないで済む支援です。同時に卒業生が働く企業や、スポーツ現場との連携は、生徒が将来を考える生きた教材になりますから素晴らしいことだと思います。 また問題のある生徒に対する取り組みの為に、早期発見を促す教職員の研修は高く評価できます。今後ますます問題のある生徒の入学が予想されますから、この取り組みは是非とも継続を願います。
		5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	3	社会人を対象とした「再進学応援学費分納制度」の整備や、震災で被災した学生への支援など、独自の経済的支援を整備している。また、入学前に奨学金や、教育ローン等も含めて学費に関する相談を学生サービスセンターが窓口で受ける。	貸与型だけでなく、企業奨学金等の給付型の開拓を進めている。	3	
		5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	3	健康診断が再検査になる学生が増えてきているため、再検査の100%受診まで追い続けている。また、インフルエンザの予防接種呼びかけ、手洗いうがいの啓蒙も行っている。	インフルエンザにより海外研修や、学外実習に直前で参加できないケースがあり学生への呼びかけは徹底して行っている。	3	
		5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	3	各種サークルの活動も活発で専門学校の大大会でも実績を残している。男子サッカー部、女子バレー部、女子バスケット部は優秀な成績を収め、学校から大会遠征費等を支援している。	課外活動のサポートは充実している。	3	
		5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	3	定期試験結果の発送や出席率について問題のある学生の保護者に対しては、即座に連絡し連携をとれるようにしている。緊急連絡先を学生より提出してもらい連絡がとれるようにしている。	課題のある家庭のほうが連絡の取りづらい傾向がある。学生の問題の兆しが出たときから連絡をして、良いことも含めてこまめに連絡をするようにする。また、学年層と担任紹介文を各家庭に郵送し、コミュニケーションを取り易いように工夫をしている。	3	
		5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	3	TSR同窓会サイトを運営し把握し、卒業後の転職・就職支援を実施している。また、資格対策講座を中心に、卒業後のキャリアアップ支援を行っている。	プロスポーツチームと産学連携し、インターンシップなど卒業生を支援している。海外、国内プロチームに所属できるよう、交渉中で、即戦力で活躍すべく、在籍中にインターンで現場経験をえられる機会を提供していきたい。	3	
		5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	3	スポーツ現場カセミナーを開催している。これは、業界の先駆的事例発表や在校生の研究発表などを行うセミナーで、卒業生に参加を呼びかけており、参加している業界関係者との新しい関係の構築する場として、活用してもらっている。	卒業生の活躍している企業とつながり、企業実習やインターンなどの活動を強化していく。	3	
6	教育環境	6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	3	学外実習に向けての教育は実習前後教育期間を設け実施している。全学科が学外実習またはインターンシップを行っており、受け入れ先に実習評価表を作成していただいている。海外研修はフロリダ、ドイツの2コースを実施し、多くの学生が参加し満足度も高かった。	インターンシップや産学協同の外部実習で意識の差異がでないように、実習前の教育において学生のレベルにあった実習先の配置を確認している。海外研修においては早期告知と国際教育の重要性を伝え、海外で活躍している卒業生紹介や海外での学びについても告知している。	3	大きな地震や大規模な自然災害に備えた、訓練と災害発生時の安否確認のためのメール登録は、他の教育機関のモデルにもなる試みです。 学外学習で体験することは、実学教育で最も重要なことです。さらに海外に出掛けて外国人との関わりを持つことは、東京オリンピックを控えた我が国では待ち望んだ学習タイプですから高く評価できます。
		6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	3	防災に対しては、マニュアルの整備、スタッフの役割分担、学生への情報提供など体制の整備はされている。地震・津波・火災を想定した避難訓練を通して、防災への注意喚起を行っている。	緊急時に学生・職員の安否確認が取れるようメール登録を徹底している。今年度より職員向けの救急コーディネータ研修がスタートしている。	3	
7	学生募集	7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか	3	オープンキャンパスを実施し、教育内容を確かめてもらう機会を作っている。学生募集活動を「入学前教育」と捉えている。合格者を対象とした「プレレレッジ」では専門知識や技術を学ぶ機会をつくることで進路をきめてから、入学されるまでの時間を、効果的に使ってもらっている。	問い合わせの段階では学校説明や学科の説明を受けてからの出願をすすめ、教育内容をご理解いただいた上で、選考を実施することを徹底する。	3	学生募集(生徒募集)は私学にとって大きな生命線です。 現在はオープンキャンパスや、合格者を対象としたプレレレッジを実施していますが、18歳人口の急減と大学入試の改革で、さらに募集環境は厳しくなってきましたので、高等学校の各種大会(高野連・高体連・高ゴ連など)に大会補助・医療補助の形で参画できるようにすると、待ちオーオンキャンパスから攻めの募集になるのではないのでしょうか。
		7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	3	合格者率、辞退率、辞退理由を毎年、データ化し、情報の管理蓄積を行っている。合格者を対象とした授業(プレレレッジ)を実施し、入学前から支援方法を検討している。	全学科が定員充足できるようになる。常に学科のイノベーションを実施し、新学科・新コースを設置して業界のニーズの変化に対応していく。	3	
8	財務	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	3	毎年事業計画書を作成し、5か年の収支予算を立てている。その中で入学人数、在校生数、退学者等を勘案して学費明細を作成し、収入予算の推移を把握している。	キャッシュフロー、資金収支の視点を、学校運営関係者全員で共有する必要があり、研修、勉強会等を充実させる必要があると考える。	3	学校及び学校法人滋慶学園として、計画的な運営が読み取れます。入学者及び中途退学者・教職員の人員費や労務管理、学校の維持管理費などを長期計画・中期計画を作成して管理していますから、財務体制は盤石です。 法人の経営者会議・学校運営関係者会議などで健全な運営がなされていることは高い評価ができます。
		8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	3	5か年の収支予算を作成し、毎年更新される。将来の学生数予測に基づき、収入予算が作成される。また、新学科構想、設備支出等を勘案し支出予算となる。	環境の変化が激しく正確な予算作成が難しくなっている。詳細な資料の入手及び分析のための体制作りが必要と考える。	3	
9	法令等の遵守	9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	3	教職員に対しては、就業規則等にも個人情報保護を明記すると共に、定期的な教育・研修を実施し受講者に試験を行い合格者には終了証を交付して周知徹底を図り、併せて各人より「個人情報保護誓約書」を提出させている。 学生、教員、講師の全てにITリテラシー教育を実施し理解度テストを全問正解するまで行うことを義務付けている。	課題改善ため、SNS管理者に委託をして、個人情報保護、およびSNSの内容調査を行っている。	3	個人情報の保護と管理、また教職員の就業規則の順守や各研修や誓約書の提出など、厳しい自己管理がなされています。 生徒の授業評価・外部の学校評価の体制も整備されていることは高い評価ができます。 教育環境はますます法令の厳守・新しい制度の適応などが求められる傾向がありますので、今後もこの取り組みを継続することを期待します。
		9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	3	自己点検、自己評価委員会を発足させて、毎年5月中旬に、完成させている。	実施できている。	3	
		9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	3	毎年1回、委員会を実施している。委員会議事録も終了後に配信をし、情報共有を図った上で、学校改善に取り組んでいる。	実施できている。	3	
10	社会貢献	10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3	東京都、江戸川区の教育機関や江戸川区体育会、また各企業、団体との連携を行っている。CLUB-TSRという形で、地域スポーツクラブを行っており、地域への開放は行っている。 災害時における協力関係に関する協定を江戸川区と結び、災害時の地域支援を約束している。	カリキュラム作成時やCLUB-TSRを運営する際に地域への貢献を視野にいれて考える習慣をつけるよう会議等で職員に啓蒙している。 近隣の小学校からのすすくスクールへの学生派遣や高齢者施設での運動指導の依頼を受けて学生が指導している。	3	国際交流ではドイツ・アイルランド・フランス・オランダ・アメリカの競技団体と講演会や授業、研修が実行されています。また国内では東京都をはじめ地元の江戸川区内の各種イベントにも大きな関わりを持つなど、学生生徒の意欲を上げるばかりか、地域社会への貢献は高く評価できます。 東京オリンピックでも大いに、オリンピック貢献を期待します。
		10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	3	ドイツ・ブンデスリーガ1部のアイントラハト・フランクフルトと国際教育に関する提携契約を締結しており、海外研修の受け入れおよび来日での講演やサッカークリニックを行っている。 オランダサッカー協会からエリックコーチが来校し授業を行った。 また、毎年12月にアメリカフロリダのIMGアカデミーで海外研修を行ない、アメリカのトレーナー技術を学んでいる。 東京オリンピックに向けてネパールオリンピック委員会と教育提携を結んだ。 World Football Connectionと業務提携を行ない卒業生が海外でトレーナー活動ができる支援体制を構築した。	在學生と卒業生が海外の活動に興味を持てるように海外で活躍する業界人の講話を実施している。 海外での活動について興味がある卒業生が求人を得られるように斡旋業者と提携し卒業生に求人を提供している。 国際交流の一環としてネパールのテコンドー・陸上のオリンピック選手への受け入れ・トレーニング支援を行なう。	3	